

とっとり産業フェスティバル2009 ポスター発表要旨

テーマ	環境保全を軸とした中山間地域再生																				
発表者	川口真一 立正大学経済学部 准教授 合田素行 茨城大学農学部 教授 塚本孝之 鳥根県中山間地域研究センター																				
概要	<p>中山間地域の維持保全については困難が多いが、「地域おこし協力隊」といった地域外部の人材や組織との連携・協働によって地域再生を図ることが力となるという立場から、鳥取県中山間地域において地域外部との連携・協働関係の構築について、地元の人々がどのように考えているか、実態調査、ヒアリング調査およびアンケート調査を実施し、課題はあるものの、地域の人々もそれを強く望んでいることを示した。</p>																				
	<div style="border: 2px solid blue; padding: 10px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <h3>1.背景</h3> <ul style="list-style-type: none"> ■中山間地域の維持・保全の困難化 (ex.「限界集落」、「空洞化」) ■幅広い地域外部の主体(人材・組織)との連携・協働を軸とした中山間地域再生への全国的な動き。 (ex.「地域おこし協力隊」「定住自立圏構想」) </div> <div style="width: 48%;"> <h3>2.研究の目的</h3> <ul style="list-style-type: none"> ■住民の意思や希望を把握する作業の必要性 (=住民の主体性確保) <p>⇒鳥取県中山間地域において、どのような地域外部との連携・協働関係を構築・活用できるか、その可能性や課題を模索。</p> </div> </div> <h3>3.方法</h3> <ul style="list-style-type: none"> ■岩美町(12集落)、若桜町(9集落)、三朝町(2集落)の集落代表者、世帯主、18歳以上の住民を協力いただき、実態調査、ヒアリング調査、アンケート調査を、以下の観点から実施。 <ul style="list-style-type: none"> ○親しみを感じている都市部 ○どのような地域外部の主体と連携協働関係を結びたいか ○連携協働について不安に感じる点 <h3>4.結果</h3> <ol style="list-style-type: none"> (1) 近隣の都市部に最も親しみを感じている。(ex.岩美町-鳥取市、三朝町-倉吉市) (2) 若年者層に近づくにつれて、大都市圏(ex.東京・大阪)へ親しみを持つ割合が増加。 (3) 行政と近隣の集落との連携協働関係の構築・活用を期待するとの回答が5割超。 (4) 約4割の住民は、連携協働関係の構築・活用について以下の不安を感じている。 <table border="1" style="font-size: small; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th colspan="2">【地域外部との連携・協働について不安に感じる点】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>これまでの集落内の贈答のルール(法回り、やり方)が継手に変えられるのではないかと不安。</td> <td><若年層の高齢化傾向> (40歳代、男性)</td> </tr> <tr> <td>誰かお世話や、これまでの伝統・文化が壊れるかもしれない。</td> <td>(40歳代、男性)</td> </tr> <tr> <td>誰かよく知らない人には不安だ。</td> <td>(50歳代、女性)</td> </tr> <tr> <td>やってくる人の性格が分かるまでは不安。</td> <td>(50歳以上、女性)</td> </tr> <tr> <td>集落の最寄りなど、なかなか見えないと思う。継手にしても大丈夫ではないか心配。</td> <td>(70歳代、女性)</td> </tr> <tr> <td>やってくる人は地域内外住民と判断してくれるのか。また集落固有の共同財産と属性住民との権利関係が不安。</td> <td>(70歳代、男性)</td> </tr> <tr> <td>集落などの行事、宴会での決める事項を理解してくれるかどうか。また集落内での行動で、従来の生活が壊れてしまわないか。</td> <td>(50歳代、男性)</td> </tr> <tr> <td>集落区の高齢者の方々がうまく活用されていき、一応に継手づくりが出来るとは思わない。</td> <td>(40歳代、男性)</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="width: 22%;"> <p>【期待する地域外部の人や組織】</p> </div> <div style="width: 22%;"> <p>【地域外部との連携・協働の不安】</p> </div> <div style="width: 22%;"> <p>【身近に感じる都市部(地域別)】</p> </div> <div style="width: 22%;"> <p>【身近に感じる都市部(年齢別)】</p> </div> </div> <h3>5.考察</h3> <ul style="list-style-type: none"> ■①身近な都市(=近隣の都市)、②行政との連携協働関係、③近くの集落との連携協働関係の構築や活用の可能性 (ex.「地域自治組織」の構築・活用) ■大都市圏との連携協働関係を活用する場合における若年者層の活用。 ■連携協働を活用するためには、地域の人々が感じておられる不安の緩和が課題。 ⇒不安の緩和を観点に含めた対応策、政策形成の必要性(ex.外部人材の研修、マッチング政策) </div>			【地域外部との連携・協働について不安に感じる点】		これまでの集落内の贈答のルール(法回り、やり方)が継手に変えられるのではないかと不安。	<若年層の高齢化傾向> (40歳代、男性)	誰かお世話や、これまでの伝統・文化が壊れるかもしれない。	(40歳代、男性)	誰かよく知らない人には不安だ。	(50歳代、女性)	やってくる人の性格が分かるまでは不安。	(50歳以上、女性)	集落の最寄りなど、なかなか見えないと思う。継手にしても大丈夫ではないか心配。	(70歳代、女性)	やってくる人は地域内外住民と判断してくれるのか。また集落固有の共同財産と属性住民との権利関係が不安。	(70歳代、男性)	集落などの行事、宴会での決める事項を理解してくれるかどうか。また集落内での行動で、従来の生活が壊れてしまわないか。	(50歳代、男性)	集落区の高齢者の方々がうまく活用されていき、一応に継手づくりが出来るとは思わない。	(40歳代、男性)
【地域外部との連携・協働について不安に感じる点】																					
これまでの集落内の贈答のルール(法回り、やり方)が継手に変えられるのではないかと不安。	<若年層の高齢化傾向> (40歳代、男性)																				
誰かお世話や、これまでの伝統・文化が壊れるかもしれない。	(40歳代、男性)																				
誰かよく知らない人には不安だ。	(50歳代、女性)																				
やってくる人の性格が分かるまでは不安。	(50歳以上、女性)																				
集落の最寄りなど、なかなか見えないと思う。継手にしても大丈夫ではないか心配。	(70歳代、女性)																				
やってくる人は地域内外住民と判断してくれるのか。また集落固有の共同財産と属性住民との権利関係が不安。	(70歳代、男性)																				
集落などの行事、宴会での決める事項を理解してくれるかどうか。また集落内での行動で、従来の生活が壊れてしまわないか。	(50歳代、男性)																				
集落区の高齢者の方々がうまく活用されていき、一応に継手づくりが出来るとは思わない。	(40歳代、男性)																				
【来場者へのメッセージ】	<p>途中経過ではあるが、作業の中で地域の人たちの切実な期待が感じられた。日常生活では、よそ者は容易に地域に参加できないが、とりえず役場職員も含めた地域総掛かりの作業がまずは出発点ではないだろうか。</p>																				
連絡先:	立正大学経済学部 准教授 川口真一 東京都品川区大崎 4 - 2 - 16 E-mail: kawaguchi77@ris.ac.jp																				
分野	環境	プレゼンタイム	無																		